

富山県宇奈月町で採集された珍奇なピロウドマイマイについて

湊 宏¹⁾・本瀬晴雄²⁾・宮本 望³⁾・布村 昇⁴⁾

¹⁾ 和歌山県立日高高等学校 644-0003 和歌山県御坊市島 45

²⁾ 939-0617 富山県入善町春日 455

³⁾ 富山貝類同好会 939-8084 富山県富山市西中野 1-8-31

⁴⁾ 富山市科学文化センター 939-8084 富山県富山市西中野 1-8-31

A Specimen of the Unfamiliar Land Shell of the Genus *Nipponochloritis* from Unazuki, Toyama Prefecture, Middle Japan.

Hiroshi Minato・Hidaka High school, 45 Shima, Gobou-shi, Wakayama, 644-0003 JAPAN

Haruo Motose, 455, Kasuga Nyuzen-machi, Toyama, 939-0617 JAPAN

Nozomu Miyamoto, The Malacological Society of Toyama, 1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama-shi, Toyama 939-8084 JAPAN

1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama-shi, Toyama 939-8084 JAPAN

Noboru Nunomura・Toyama Science Museum

富山県下新川郡宇奈月町尾字瀬馬谷地内(大字舟見・明日・音沢)の宇奈月ダムの建設資材置き場(標高約260m)で1998年10月15日、鍋谷時敬氏(宇奈月ダム環境巡視員)が見なれないマイマイを発見した。相談を受けた本瀬は、従来富山県から知られている種ではないことに気づき、富山市科学文化センターに鑑定を依頼した。さっそく、同館の布村は、宮本と連絡をとりながら貝殻を中心

に検討したが、種名の確定にいたらず、生殖器の検討から種名の同定の必要を感じて、湊まで送付されて検討するにいたった。

その結果、貝殻や生殖器の検討から、次のよう結論を得たので報告する。

(1) 貝殻や殻毛(図2)がほとんどとれてしまつて、殻毛の状況が完全に把握できない。

(2) 生殖器(図3)に微小な「鞭状器(f1)と比

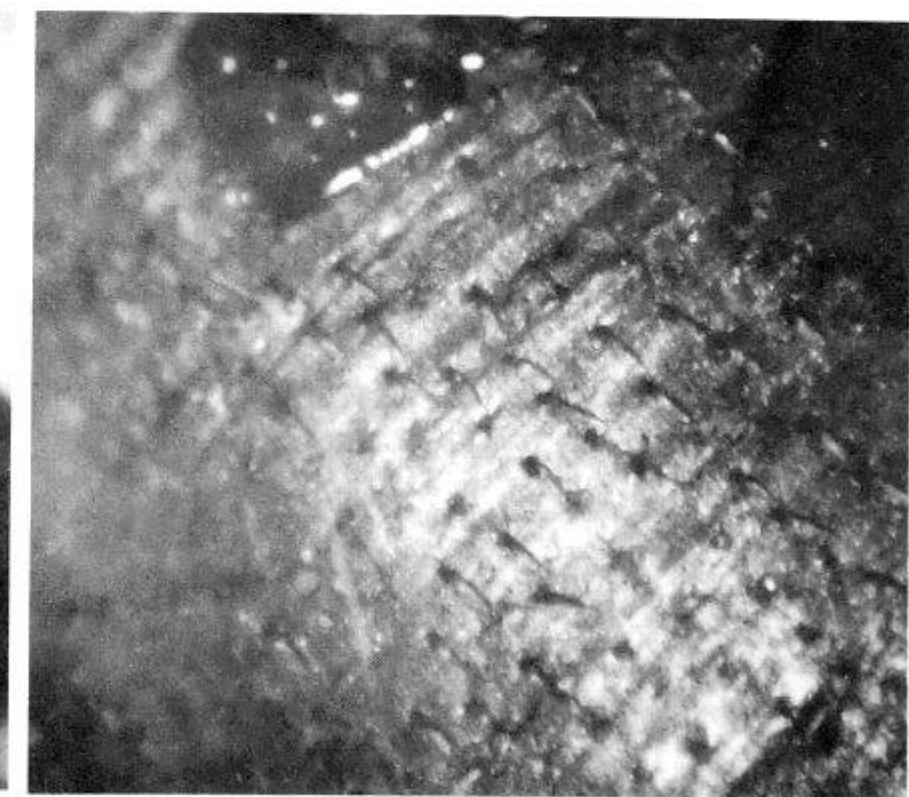
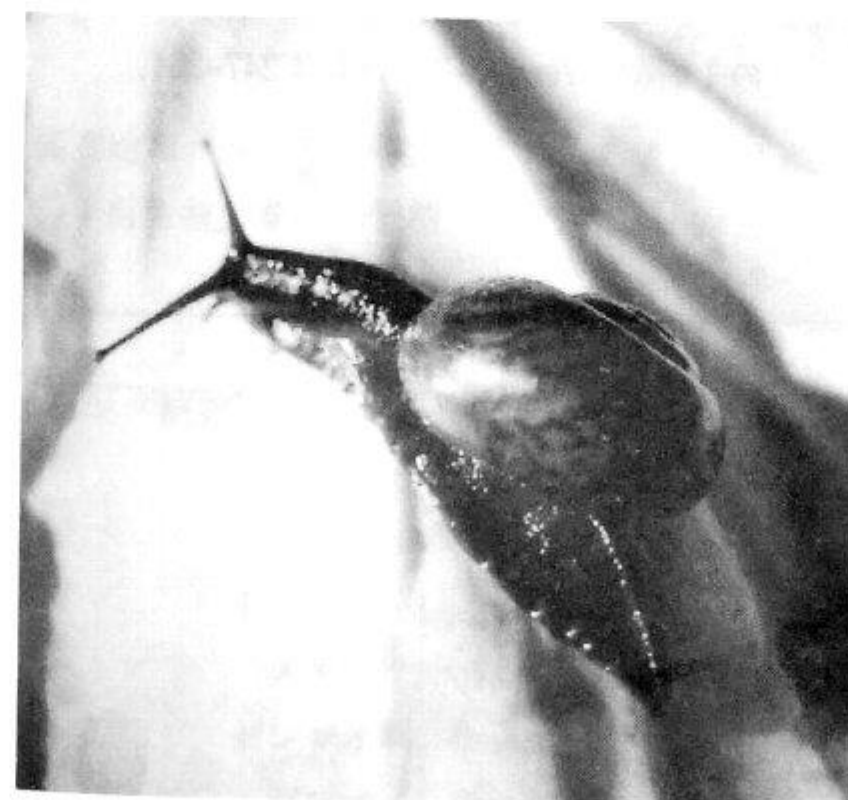


図1. カワナピロウドマイマイ類似種 *Nipponochloritis* cf. *kawani* Sorita, 1980 (富山県宇奈月町産) 生体

図2 同、殻の表面の拡大

富山県植物雑記 (3)

長井 幸雄

富山県立小杉高等学校 939-0341 富山県小杉町三ヶ 1520-1

Notes on the Flora of Toyama Prefecture (3)

Yukio Nagai・Kosugi High School 1520-1 Sanga, Kosugi-machi, Toyama, 939-0341 JAPAN

はじめに

近年、地域開発によって身近な自然が急激に失われつつある。そのため地域の植物相の実態が明らかにされないまま失われていく可能性が極めて高い。そこで富山県内各地域の植物相の概況を記録にとどめておくことが必要と考え、不十分な調査記録ではあるが前報(長井, 1996, 1997)に引き続き植物名を報告することにした。本記録が県内各地域の植物相を解明するための資料や自然観察、自然環境の保全のための資料となれば幸いである。

目録を整理するに当たって富山県総合教育センター科学教育部の市田治慧子さんに御助力いただいた。記して感謝の意を表したい。

材料と方法

調査は1995年5月20日に上市町眼目の標高 130 ~ 210mにある立山寺の境内およびその周囲の自然観察路(A地点)、同年7月22日に婦中町吉住ねいの里の標高 100~140 mの自然観察路(B地点)、同年9月12日と1998年2月22日に小杉町薬勝寺池の周囲の標高15m~30mの遊歩道(C地点)、1995年9月10日に福野町安居の標高50~130mにある安居寺の境内およびその周囲の遊歩道(D地点)で行った。いずれの調査地点においても自然観察路ないし遊歩道に沿って種名を記録した。植栽された種については、任意に記録にとどめた。学名は主に、北村・村田(1986)、佐竹ほか(1981, 1982a, 1982b, 1989a, 1989b)、岩槻(1992)に基づいた。

植物目録

調査地点 A:立山寺, B:ねいの里, C:薬勝寺池, D:安居寺

○:自生種, ●:植栽種, ◎:逸出種

種 名	調査地点	A	B	C	D
(シダ植物)					
ヒカゲノカズラ科 Lycopodiaceae					
トウゲシバ <i>Lycopodium serratum</i>			○	●	●
トクサ科 Equisetaceae					
スギナ <i>Equisetum arvense</i>				○	○
ゼンマイ科 Osmundaceae					
ゼンマイ <i>Osmunda japonica</i>				○	○
ウラボシ科 Gleicheniaceae					

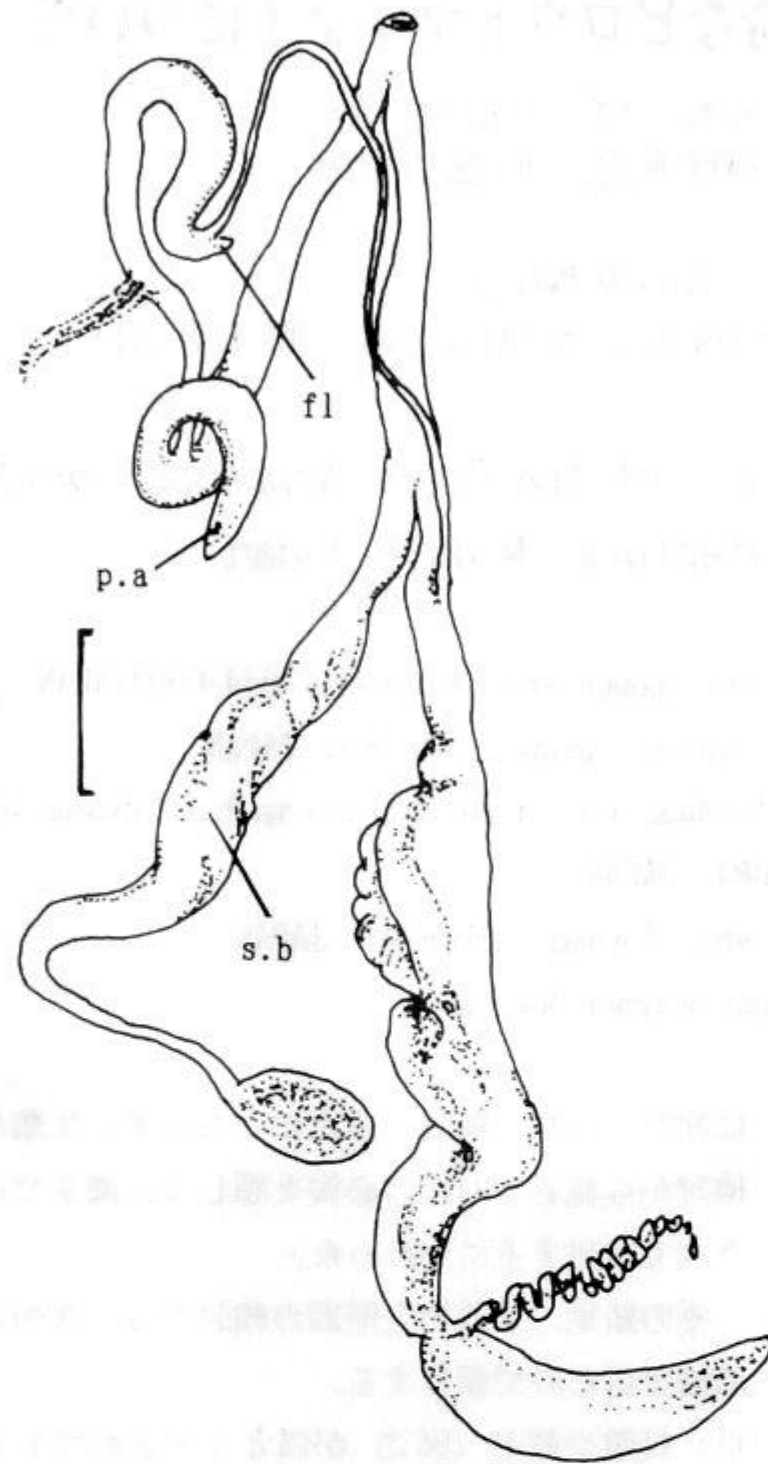


図3. 同 生殖器 (湊原図 Scale=5mm)

較的長い陰茎付属肢 (p. a) があること、さらに受精囊柄部 (s. b) の中程がやや太くなることが特徴として挙げることができる。

以上のような標徴をもとに本種を検討したところ、山形、福島、栃木、群馬、長野の各県から記録されているカワナビロウドマイマイ *Nipponochloritis kawani* Sorita, 1980に比較される種であることが分かった。さらに、福井県武生市高森町大虫を模式産地とする *N. echizenensis* (Pilsbry & Hirase, 1903) にも似ている。後者の生殖器(石川県白山産)は東(1982)によって記録されている。これによれば、陰茎付属肢が極端に

長くなること、受精囊柄部が比較的短くて、中ほどが太くならないなどが特徴的と考えて、今回の個体とは明らかに識別される。ただ、反田(1980)が報告した個体は陰茎付属肢が、今回の個体に比べて短いので、宇奈月産の標本は、カワナビロウドマイマイ *N. kawani* Soritaと同定することは躊躇する。日本産ピロウドマイマイ類は多くの種類が報告されているが、その分類が極めて難しく、識別するのが多くの場合不可能に近い(湊1988, 東, 1995)。今回得られた標本は生きていた個体であったが、ただ1個の所見であることで、さらなる標本の追加によって、確実な種の同定をいたしたく、カワナビロウドマイマイ *Nipponochloritis* cf. *kawani* Sorita, 1980としておきたい。なお、宇奈月産の標本の貝殻の殻高は 12.3mm、殻径 19.9mmであった。また、この貝殻標本は富山市科学文化センター(TOYA-Mo 67545)で保管される。

文 献

- 東 正雄, 1982. 日本ピロウドマイマイ属2新種. *Venus*, 41 (2): 102-108.
 東 正雄, 1995. 原色日本陸産貝類図鑑(増補改訂版) 43pp. 保育社(大阪)
 湊 宏, 1998. 日本産陸産貝類総目録194. 同刊行会(白浜)
 反田栄一, 1980. 栃木県日光産ピロウドマイマイの1新種. *Venus*, 38, (4): 247-251.